

2 それぞれの考えのよさについて話し合う。



①のひき算は、簡単そうだけれども、数が大きくなったらとても大変そうだよ。



②は、かけ算を使っているから分かりやすそう。でも①と同じように数が大きくなると大変だよ。



③は10個を1箱と見るととても簡単なわり算にすることができるね。10を1と見ることが大切なんだね。

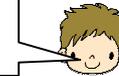
3 60÷20の計算の仕方をまとめる。

集
団
思
考



何十÷何十のわり算は、10を1箱で考えるとどんな計算と同じになるだろう。

10が1箱ということは、10のまとまりで考えるということで、1けた÷1けたの計算にすることができる。



60÷20は、10のまとまりで考えると「6÷2」と同じだね。

この問題文は、10個を1箱にすると「6箱のあめがあります。このあめを1人に2箱ずつ分けると何人に分けることができますか。」という問題に変えることもできるね。



●ひき算は一見簡単そうだが、数が大きくなった際のことを考えさせていく。

●10を基にして考えると60÷20が6÷2で表せることに気付かせていく。

●具体物を使いながら、60個のあめを10個ずつの箱が6箱あることに気付かせていくことで既習のわり算に結びつけることができることを確認する。

ま
と
め

○ 適用問題に取り組む。(教科書や単元問題ライブラリー)

○ 本時のまとめをする。

・10を基にして考えると、60÷20の商は、6÷2の計算で求めることができる。

●何十÷何十の計算は、10を基にして考えると一桁÷一桁で計算することをおさえる。